

「RE100」目標達成年限を2040年から2025年へ
豊かさと環境が共存する未来のため「脱炭素社会」に向けた取り組みを加速

いちご株式会社は、長期VISION「いちご2030」のとおり、従来の心築（しんちく）を軸とした事業モデルをさらに進化させ、「100年不動産」へチャレンジするとともに、地域および地球に優しいクリーンエネルギー事業を積極的に推進しており、サステナブルな社会を実現するための「サステナブルインフラ企業」として大きな成長を目指しております。

その目標を達成するための一環として、事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーとすることを旨とする国際的なイニシアティブである「RE100」に加盟しておりますが、目標達成年限を2040年から2025年に15年前倒しすることとし、脱炭素社会実現への取り組みを加速してまいります。

【いちごの新目標】

2025年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにする

この目標においては、当社が運用する上場投資法人（いちごオフィス8975、いちごホテル3463）が保有する不動産にて消費する電力を含めて100%再生可能エネルギーとすることを目指しております。

※ 心築とは、いちごの不動産技術とノウハウを活用し、一つ一つの不動産に心をこめた丁寧な価値向上を図り、現存不動産に新しい価値を創造することをいい、日本における「100年不動産」の実現を目指しております。

RE100

CLIMATE
GROUP

CDP

■ 「脱炭素」社会実現に向けた取り組み

当社は、現存不動産を活かし、省資源・高効率を図る心築事業に加え、遊休地を有効活用し、国内エネルギー自給率への貢献に向けたクリーンエネルギー事業を展開するサステナブルインフラ企業です。

現在、いちごが開発および運営する稼働済みの太陽光および風力発電所は、52発電所・約157MWであり、開発確定済の発電所を含めると、約200MWに及びます。さらに、エネルギーミックスによる電力供給の安定性向上に向け、森林の高齢化課題に対応したグリーンバイオマス事業についても計画しております。今後も再生可能エネルギーの創出に注力し、国内エネルギー自給率向上に貢献してまいります。

また、当社の事業の軸である「心築」では、現存不動産を壊すのではなく「活かす」ことによる長寿命化・省資源化を図っております。欧米諸国の建物の平均寿命が約 100 年であることに対し、わが国では、30 年前後で半数が取り壊され、建て替えが行われております。不動産の解体や材料の廃棄、新たな建築のための材料製造における消費エネルギーは膨大です。当社では、わが国の不動産の寿命を 100 年にしたいと本気で考え、その実現のため、建物診断により機器の状況とともにカルテ化し、環境負荷低減の観点から評価および改修工事を行っております。持続可能な建物を増やし、街や人々と結びつけることで、サステナブルインフラを提供し、環境負荷を低減してまいります。

これらの取り組みは、わが国におけるいちごの使命であると考えており、当社の経営理念「日本を世界一豊かに。」の実現に向け、未来に心を尽くしてまいります。

■ 「RE100」の概要

世界で影響力のある企業が、自らの事業で使用する電力を、CO2 を発電時に排出しない太陽光、風力、水力、バイオマスなどの再生可能エネルギーで 100%調達することにコミットし、将来的に脱炭素社会（カーボンニュートラル）社会に移行することを目的とする国際イニシアティブです。

国際環境 NGO 「The Climate Group (TCG)」が、投資家等に向けて企業の環境情報を提供する国際的 NGO 「CDP」とのパートナーシップのもとで主催しています。また、企業や投資家の温暖化対策を推進している国際機関やシンクタンク、国際的 NGO 等が構成機関となって運営しているプラットフォームの「We Mean Business」連合の一部としても運営しています。日本では、2017 年 4 月より「日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP)」が RE100 の地域パートナーとして日本企業の参加（2021 年 6 月現在 56 社）を支援しています。

RE100 への参加対象企業は、以下のいずれか 1 つ以上に該当する企業です。

1. グローバルまたは国内で認知度・信頼度が高い
2. 主要な多国籍企業（フォーチュン 1000 またはそれに相当）
3. 消費電力量が 100GWh 以上（※）
4. RE100 の目的に寄与する、何らかの特徴と影響力を有する

（※）現在、日本企業は 50GWh 以上に緩和されています。

本リリースに関するお問合せ先 いちご IR 推進部 03-3502-4818

以 上